

議事録 概要
第4回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚について
日時：令和7年7月30日（水） 午後2時00分～午後4時00分 場所：西公民館 ホール 参加者：54名 市出席者：森市長
《市長のテーマ説明》 1 まちづくりの理念 理念：「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち」 「ひとりひとりにやさしい」：個々の市民の個性と価値観を尊重し、共生を目指す。 「ささえあいのまち」：市民一人ひとりが互いに支え合い、地域全体でサポートし合う関係を築く。 理念の原体験 共働学舎での共同生活：多様な人々と役割分担を行い、調和の取れた社会をつくる経験から学んだこと。 阪神・淡路大震災でのボランティア活動：災害時に見た協力の精神が、地域社会の大切さを再認識させた。 2 財政の現状と課題 現状 貯金：約400億円（そのうち50億円は財政調整基金）。 借金：約700億円。返済状況は安定しており、計画通りに進行中。 課題 構造的赤字：収入562.9億円、支出569.2億円。毎年約6.3億円の赤字が生じており、このままだと財政調整基金が10年後に枯渇する可能性。 持続可能な財政運営：支出削減を進めつつ、長期的な収支バランスの改善が急務。 今後の対応策 支出の見直しと効率化により、年間7億円の削減を目指す。財政基盤を強化し、将来に向けた安定した財政運営を確立する。 《対話》 1 参加者【給食の多様性と廃棄問題について】 ・子どもが公立中学校に通学。給食の牛乳提供停止には診断書が必要なのが疑問。 ・実は家庭の方針（思想・宗教・健康等）でも申請すれば停止できると教育委員会から聞いたが、保護者には周知されていない。 ・飲まない牛乳を保護者が支払って廃棄しているケースが多い。 ・無償化予定（2026年）を見据え、牛乳選択制の導入または廃止を検討してほしい。

➡ 市長

- ・周知不足は改善に努めたい。
- ・選択制導入にはコストや手間がかかるため、慎重に判断する。
- ・給食の質を落とす無償化には反対。
- ・同じように考えている市長は多い。質を落とした無償化にならないよう協力して国に要望をあげたい。

2 参加者【外郭団体への支出見直しについて】

- ・財政難により貯金（財政調整基金）を切り崩して予算編成していることを問題視。特に FM 宝塚（外郭団体）への年間 5,100 万円の支出に疑問であり、同団体の純利益はわずかで、費用対効果が低い。
- ・廃止ではなく、段階的削減や市役所内での業務代替を提案。
- ・市民みんなで無駄を考え、アイデアを行政に送るべきと呼びかけ。
- ・最後に市長へ「大きな政府か小さな政府か？」という質問。

➡ 市長

- ・FM 宝塚には就任当初から注目していた。確かに支出は大きい。
- ・収益目的ではなく、防災や広報の機能を重視して評価しているが、現状の支出が妥当かどうかは真剣に検討中。
- ・「大きな政府か小さな政府か」については、どちらでもない中間の立場。
- ・市民との対話を重ねながら、柔軟に最適なバランスを探っていきたい。
- ・自分の経験からも、成熟社会では極端な立場ではなく“ちょうどよさ”を見つけるのが行政のあり方と考える。

3 参加者【地域交流拠点の在り方について】

- ・「ほっこり湯」（人権文化センター内の施設）の閉鎖通知が突然出たことに疑問。
- ・日々200 人ほどが利用、特に高齢者の憩いの場となっている。夜は若者も利用しており、地域交流の場として機能している。
- ・今回の通知が急で説明不足。来月の説明会で多くの反対意見が出ると予想。
- ・財政的に厳しいのは理解しているが、閉鎖前提でなく、存続の可能性を探ってほしい。

➡ 市長

- ・「ほっこり湯」には実際に行ったことがあり、地域にとって重要な場所と認識。
- ・閉鎖は突然の決定ではなく、運営法人と長年協議してきた結果。
- ・運営法人も継続は困難との判断。以前と比べて状況はさらに厳しくなっている。
- ・市民からの意見は今後も積極的に受け止めていく。

4 参加者【宝塚市立病院の産科廃止について】

- ・市立病院に産科がなくなったことについて問題。
- ・中川市長時代に「市立病院では産科はやらない」とされた。
- ・代わりに近隣（伊丹・近畿中央病院など）の利用を求められてきたが、それらも弱体化。
- ・「命が生まれる場所」は大切に、市としてどう考えているのかを知りたい。

➡ 市長

- ・自身も小児科医であり、産科の重要性は理解・共感している。
- ・宝塚市は現在、伊丹病院と連携協定を結び、出産はそちらで対応。
- ・市内には民間の産科クリニックが3つあり、そちらの存在も大きい。
- ・現在の市立病院では病棟スペースの問題から産科診療は現実的ではない。
- ・しかし、新病院構想の中では市民や関係者の意見を聞いて検討したい。

5 参加者【空き家対策について】

- ・空き家問題と高齢化について懸念。
- ・自身が住む西山でも、高齢者の住み替えや空き家が目立ち始めている。
- ・若い世代が住み替えをしてくれるのは良い傾向。
- ・市が不動産業者や市民と連携して、空き家を再活用できるような再開発の仕組みを検討してほしい。
- ・地域の価値を守る観点でも「空き家対策のプロデュース」を要望。

➡ 市長

- ・空き家対策は市としても重要課題と認識している。
- ・行政が動く市が全部やってくれと誤解される可能性があるため、慎重に進めたい。
- ・法制度・連携・民間の力を活用しつつ、コストを抑えた現実的な空き家対策を模索中。

6 参加者【子供の居場所づくりについて】

- ・仁川小で放課後の遊び場（居場所づくり）をNPOとして運営。
- ・コロナ後、子どもの運動能力低下や怪我が増加。遊び場は子どもにとって重要。
- ・人件費高騰に対し、市も財政難である中、PTAの関与も減る懸念あり。
- ・西宮・芦屋では市が主導し遊び場整備済。宝塚でも支援を強化してほしい。
- ・市長に現場視察を希望。

➡ 市長

- ・活動に感謝。遊び場の重要性は認識している。
- ・放課後児童クラブと合わせて、放課後支援全体の見直しを検討中。
- ・財政や安全性のバランスをとりつつ、包括的視点をもって柔軟に考えていきたい。
- ・視察はスケジュール次第で調整したい。

7 参加者【東公民館の休館に伴う代替施設の利用について】

- ・音楽活動（ドラム練習）の練習場所として東公民館を利用していたが、10月から半年間、工事のため公民館が使用不可になる。
- ・代替として西公民館または中央公民館の一部へ東公民のドラムセットの設置を検討してほしい。

➡ 市長

- ・工事は空調や図書室、トイレ等の整備のため必要なものである。利用者にはご不便をおかけするが、理解をお願いしたい。
- ・他公民館の利用状況は即答できないが、要望書を「市長宛」で提出してもらえたら確認のうえ対応を検討する。必ず目を通すので、正式な手続きでの要望提出をお願いしたい。

8 参加者【宝塚市の将来像と財政運営について】

- ・宝塚市の歴史や地域特性を踏まえたまちづくりの方向性を知りたい。
- ・市長のビジョン（4年・8年・12年など長期的展望）を聞きたい。
- ・ふるさと納税による財源確保について、取り組み状況を確認したい。
- ・今後の財政運営に備え、余剰金的な備えも必要ではないか。

➡ 市長

- ・財政再建は必要であり、まず持続可能な状態を目指す。
- ・住民にとって「住みたい」と思われる、落ち着いたまちを目指す。
- ・ふるさと納税は都市部には制度上不利だが、工夫を重ね努力している。制度上の限界があるため、過度な期待は持たず、堅実に運用している。
- ・税収を支えるのは最終的に「住みたい」と思ってもらえるまちづくりである。

9 参加者【高齢者施策に関する提案について】

- ・市長の経歴に期待している。
- ・高齢化が進む中、高齢者が生き生きと暮らせる施策を考えてほしい。
- ・アイデアを今後、市長宛に提案として送付したい。

➡ 市長

- ・高齢者を一括りにせず、個々の希望に応じた支援が重要。
- ・自己実現ができる環境づくりを大切にしたい。
- ・提案は歓迎しており、実現可能なものは積極的に検討する。

10 参加者【仁川地域の都市計画道路と緑化について】

- ・競馬場高丸線の工事が進行中で、最後の用地取得も完了した。
- ・幅16mの歩道があり、街路樹などの緑化設置が可能と考える。費用もあまりかからず、維持管理も工夫次第で対応可能と考える。

- ・緑化を進めれば、地域の景観向上・通学路の安全性確保にも寄与。
- ・利用者（小学生・高齢者）も多く、費用対効果が高い。

➡ 市長

- ・工事は順調で、用地問題もほぼ解決。
- ・緑化（街路樹）には賛同するが、実施には課題も多い。
（コストが高い、落ち葉・視界妨害など苦情が多い。）
- ・検討はしたいと思うが、全国的にも緑化に関する反省事例がある（計画段階で情報不足など）。

11 参加者【逆瀬川駅周辺の活性化について】

- ・逆瀬川が寂れているという声があり、実際にその通り。市の「顔」として、もっと活性化してほしい。
- ・駅周辺は交通利便性が高く、ポテンシャルがある。
- ・高齢者向けの「キッザニア的」な屋内体験型施設を提案。
- ・屋外活動が難しい気候の中、健康維持や交流の場として有効。

➡ 市長

- ・逆瀬川は市の玄関口として重要。商業施設の活性化は市全体の活性化に直結。
- ・駅周辺は民間土地も多く、市が単独で介入しにくい。
- ・現状、土地不足で大規模商業施設誘致は難しい。
- ・民間と連携しつつ、課題解決型の都市政策を模索中。
- ・具体的な構想は言えないが、1年以内に方向性を示したい。

12 参加者【高齢者の交通と気候変動について】

- ・90代の高齢者が運転しているが、免許返納後の不便さが心配。地域で支え合う仕組みが必要。
- ・気候変動と経済が対立するという認識に違和感。両立できるはず。
- ・気候問題は政治で解決すべき。宝塚市での具体的な取り組みを知りたい。

➡ 市長

- ・東京のように車なし生活は工夫次第で可能。公共交通やシェア活用で自然に移行を促すべき。
- ・気候変動対策は環境に優しい暮らしを提案し、押し付けず進めていく。
- ・経済と環境は両立できる。気持ちよく変わる社会を目指す。

13 参加者【宝塚市の広報板と今後の在り方について】

- ・宝塚市内に200以上の広報掲示板があるが、廃止の噂を聞いている。
- ・広報板の必要性について、この機会にデータ収集をして、市長の参考にしてほしい。

- ・広報について、シルバー人材センターで掲示板管理に関与。
- ・8月に4回対話を開催予定なので、何で対話を知ったかアンケート結果を参考に広報板の必要性を検討すべき。

➡ 市長

- ・アンケート結果により、情報源は「広報紙」や「知人から」が多い。
- ・掲示板の撤去は検討中で、多くの場所で撤去方向。ただし、自治会からの要望があれば、整理して引き渡す対応。
- ・自治体によって情報の出し方は異なり、柔軟に対応していく予定。

14 参加者【公共交通と暮らしの安心について】

- ・月見山地区在住し、地域の「ランランバス」を利用している。
- ・地域・事業者・宝塚市の三者で運営会議を継続的に実施、今後の課題にも地域として継続的に取り組みたい。
- ・利用者の70%は健康な一般世帯であり、高齢者だけに特化していない。
- ・地域全体を対象にした交通政策として有効と考えている。
- ・公共交通を宝塚市の政策の柱の一つにしてほしいと要望。

➡ 市長

- ・月見山地区など7か所でのバス活用に感謝している。
- ・地域の取り組みを嬉しく思っており、今後も共に進めていきたい。
- ・他地域にも「こういうやり方がある」と伝えていきたい。

15 参加者【持続可能なまちづくり財政について】

- ・現在の50億円の財源は3年間で、その後はどうするのか疑問が残る。
- ・日本の財政制度が硬直的で、柔軟な対応ができていない印象。
- ・アメリカのトランプ大統領が実施したような高関税政策に着目し、企業に対する課税強化を検討すべき。
- ・一人ひとりが違う要望を持つ中で、それらを叶えるには持続可能な財政が必要。

➡ 市長

- ・税の仕組みは国レベルの問題であり、自治体では変更できない。
- ・高収益企業への増税は、企業の海外移転を招くリスクがある。
- ・ヨーロッパやオーストラリアでは州政府に課税権があるが、日本の「自治体」にはない。
- ・住民の気持ちは非常によく理解できる。
- ・税ではなく、他の工夫で収入増を考えていきたい。

16 参加者【学校給食無償化について】

- ・署名を集めて給食無償化を請願したが、議会で否決された。
- ・給食無償化は憲法に基づく基本的な教育要求である。財政的困難の中でも、子どもたちの将来への投資として無償化が必要と考えている。
- ・長期的なまちの価値向上につながる施策として給食無償化を。
- ・全国市長会でも無償化の要望が出されており、自治体から実現を進めるべき。
- ・市民の声を行政はしっかり受け止めてほしい。

➡ 市長

- ・給食は「質の高い学びの一環」であり、その重要性は理解している。
- ・財政状況は厳しいが、国への要望も含めて、無償化の働きかけは継続する意向である。
- ・宝塚市としての対応方法についても今後検討していきたい。

17 参加者【通学区と歩道の見直しについて】

- ・宝塚市伊子志（地域）に居住し、近くの末広小学校で支援活動を行っている。
- ・小学生と関わる中で、中学校の通学区に疑問を持った。
- ・実際の居住地から通学する中学校より他の中学校の方が近い可能性がある。通学区の見直しが必要ではないかと感じている。
- ・歩道・道路環境が狭く危険と感じている。
- ・将来的に高齢者にとって歩行が難しくなるのではという懸念がある。

➡ 市長

- ・学校の通学区問題は継続的な課題である。
- ・近隣に別の中学校があることによる矛盾は他の地域でも指摘あり。
- ・教育委員会の所管であり、直接指示は難しいが、中長期的な改善を検討したい。
- ・道路の狭さ・危険性は認識している。宝塚市全体の地形・都市構造の中で課題が多い。
- ・財政とバランスをとりながら段階的に改善を進めていく。
- ・具体的な約束はできないが、課題意識は共有しており、今後も意見を寄せてほしい。